

# 手と手を つなぐ

— 動き出したプロジェクト  
産・官・学・民で作りに出す新しい公共 —

## 「キセラ川西」プロジェクト三者対談

阪急・能勢電鉄「川西能勢口」駅から北へ約600m。整備事業が進められているこの地区の愛称は「キセラ川西」。輝きや希望を表す「キ」、まちを象徴するせせらぎの「セ」、都（洛）を想像させる「ラ」を合わせ、市民公募により決定しました。今号はこの地区で進められている産・官・学・民の協働プロジェクトについて、市民ワークショップ参加者の延命寺さんの司会で、事業に関わる3人が熱い想いを語り合います。会場は、能勢電鉄株の「のせでん里山インフォメーションコーナー」。キセラ川西について、詳しくは地区整備課 ☎(740) 1207 へ。



■ PFI 事業とは…従来、国や地方公共団体が自ら行ってきた公共施設などの「設計」「建設」「維持管理」「運営」を、民間の資金、経営能力および技術的能力を活用して行う社会資本整備の新しい手法。PFI では、設計から運営までを一体のものとして1つの事業者が一括して行うことが特徴。

### 動き出したプロジェクト

司会・延命寺さん（以下司会） 市長にとつてのキセラ川西とは、どのようなものでしょうか？  
大塩市長（以下市長） 「キセラ川西」のエリアは川西のまちにとつて長年の懸案でした。市長に就任して9年目ですが、私もなんとかこの地区を活性化していきたいと取り組んできたところなんです。皆さんのご協力を得て、ようやく形になってきたとうれしく思っています。

### 整備エリアの概況

市長 少し、キセラ川西の概況を述べさせてもらいます。このエリアは22・3 畝という広い区域で、4つのゾーンに分かれています。その中で核になるのが中央公園とせせらぎ遊歩道です。こういう自然環境を核としたまちづくりは、今までにない取り組みで、中央公園は2 畝あり、楽しんでいただけるだけでなく防災機能を兼ね備えているんですよ。いざ

### この事業に掛ける想い

司会 では、原田社長、PFI 事業者としてこの事業に掛ける想いなどをお聞かせください。

原田社長（以下原田） まず、キセラ川西PFI 株式会社について、簡単に説明します。この会社は、キセラ川西の事業のみを行う特別目的会社として立ち上げたもので、建設会社と設計会社、維持管理会社、事務管理会社の4社による共同出資となつ

というときには4500人が避難することができ、断水時でもマンホールトイレが使用できるなどの機能があります。また、公園の周囲にはランニングコースや散策の小路を整備し、太陽光や水力を利用したエネルギー活用も考えられています。そして、他のゾーンには地権者の皆さんが集客施設を誘致されるほか、民間事業としてのマンション、市の文化会館などを集約した複合施設、さらには医療施設などが建設されます。司会 それらを中心でつないでいくのが中央公園やせせらぎ遊歩道ということなんですね。

市長 その通りです。このエリアを形作っていくプロセスの中で、キセラ川西PFI 株式会社の原田社長や、まちづくり大使として西島さんにご協力いただくことになったのも何かの縁だと感じています。



キセラ川西オリヴィエマンションギャラリー

ています。今、市長のお話を聞き、中央公園とせせらぎ遊歩道の整備から維持管理までを一貫して担う責任の重さを、改めて痛感しています。市や市民の皆さんの協力を得ながら、想いを実現できるよう、全力を挙げて事業展開していきたいと思っています。

司会 完成がとても楽しみです。続いて、西島さん、昨年11月にキセラ川西まちづくり大使に任命され、公園や遊歩道の植樹植栽の設計に関わられています。市からこの話を聞いたとき、どう思われましたか。

まちづくり大使・西島さん（以下西島）素晴らしいタイミングで声を掛けてもらったと思います。大使に任命してもらい、頑張らなきゃいけないなって、本心からうれしかったです。川西ですと商売をやってきて、3年前にこういったコンサルティンク業務を手掛ける「そら植物園」を立ち上げたんです。結構いろんなところで仕事をしてきましたが、地元である川西ではなかなか仕事が無いなと思っていました（笑）。そんな時に声を掛けていただいて、自分の住んでいるまちで仕事ができることがうれしくもあり、子どもも生まれ、また子どもが育っていくまちづくりに関わること、身が引き締まる思いもあります。

# 行政 × 事業者 × まちづくり大使 全国初のコラボ・ プロジェクト進行中！



“PFIはすごく合理的  
世界的に評価される公園へ”

■プラントハンター  
西島 清順さん

明治元年から150年続く、植物卸問屋「株式会社花宇」の5代目。国内外を旅し、収集・生産する植物は数千種類。海外のプロジェクトも含め、年間2,000件超の案件に当たっている。



“市民と専門家の声をマッチング  
全国に先駆けた取り組みを”

■川西市長  
大塩 民生

川西市出身。昭和60年には川西青年会議所理事長を、平成7年から18年まで市商工会副会長を務めた。18年、市長に初当選し、現在3期目となる。



“皆さんに愛され  
親しまれる施設の実現へ”

■キセラ川西 PFI 株式会社 代表取締役  
原田 治さん

大阪府出身。昭和53年「株式会社奥村組」入社。名古屋支店長を経て、平成26年4月から執行役員関西支店長に就任。同6月、「キセラ川西 PFI 株式会社」の代表取締役を兼任。

## 全国的にも珍しい PFI事業とは

**司会** キセラ川西の事業展開には、全国的に先駆けた取り組みがあるそうですね。道路や公園の整備をPFI事業で行うこと自体、あまり前例がないと聞いていますが、市長はなぜPFI事業を導入したのですか。  
**市長** キセラ川西のPFI事業には二つの利点があると思っています。一つは、作っただけで終わりというのではなく、後々の維持管理もやっていくということ。もう一つは、公園を利用する市民の皆さんの声を聞いて、事業を行っていくということ。設計の段階から市民の皆さんにも参加してもらおうという手法です。ただ、市民の声と専門家の声をどのようにマッチングさせるか、これが非常に大事なことです。市民参加だけでは事業はできない。そこは協働というか、その一つの例になるのではないのでしょうか。特に道路や公園というハコモノではないものを対象とするキセラ川西でのPFIは、全国に誇れるものだと思います。  
**司会** なるほど。設計と施工と維持管理をセットでやってしまうわけですね。  
**市長** そうです。それをしようとしたときに、複数年の契約をする必要がありますから、それを実現する方

## 市民参加の新しいカタチ

**司会** 西島さんは木によるまちづくりを実践されていますが、市民参加についてどう思われますか。  
**西島** 形だけでなく、市長さんや社長さんが声を大にして、市民と共にやりますよと言っているのがいいじゃないですか。これからも、たくさん市民が関わってやっていく。僕は、このキセラ川西がものすごくいいモデルケースになると思います。日本だけじゃなく、世界に誇れるような事業になるんじゃないかと思っています。仕事柄いろいろな国へ行きますが、例えば、メキシコでは街路樹が建物より大きくなって、市民がそれをリスペクト（敬意を払う）していて、落ち葉を自動的に掃除しているんですよ。「One Tree」、自分たちのまちの木として、愛着を持ってやっていくんです。  
**司会** 自分たちの公園、うちの庭という感覚で、中央公園に遊びに行く子どもたちや親が増えていってほしいですね。  
**西島** そういうことを通して、市民の環境に対する意識レベルが上がっていく効果もあると思います。川西

法がPFIだったのです。  
**司会** 原田社長は、今のお話を聞かれていかがですか。市民参加についてはどのようにお考えでしょうか。  
**原田** 私がおります建設会社では、数多くのPFIを手掛けてきました。市長がおっしゃる通り、建築主体のハコモノPFIがほとんどで、私もが提案した事業提案書に基づいて施設を設計し、運営管理するというのが通例でした。本音を言いますと、市民の皆さんからいろんな提案が出てきて、私どもの提案と違った方向へ進んで行ったらどうしようかという不安な面もあります。限られた工期の中で、市民の皆さんのご意見をどのように実現していったらいいのかわからない戸惑いもあります。しかしながら、今回、市民参加を実現するためにPFI事業を選択されたということですので、その重要性を認識し、市民の皆さんに愛され親しまれる施設の実現に努めたいと思っています。

**西島** 僕はPFIって、すごく合理的だと思うんですよ。仕事を分けてみると、設計士は管理することについて知らないし、施工する業者も実際に植物を育てたことがあるわけではないですよ。木は生き物なので、植物の生理学的な知識や木の気持ちに分らないと、本当は設計も管理もできないと思います。全部を1社

市が市民を導いて、全体の意識レベルが上がっていくと、世界的に評価されるようになるというか、そうなってほしいですね。  
**市長** 今、盛んに協働ということがいわれています。かなりの分野で市民の皆さんが地域のことをされていますが、もっと全体に広がっていくばと思います。もともと日本では、地域の事は自分たちでやってきたから、もっとそういう考え方の人が増えるように進めていきたいと思っています。

**司会** 23年度にはせせらぎ遊歩道の、昨年度には中央公園の設計に反映するための市民ワークショップが展開されました。この案をベースにして、どのように工事が進んでいくのでしょうか。  
**原田** 市民の皆さんの想いが詰まった設計をいよいよ形にしていきたいと思います。まず、皆さんと私たち施工者で十分に意思疎通を図り、西島さんにもアドバイスをもらいなから、設計の意図を十分に把握して施工に反映していきたいと思っています。また、市民の皆さんには、節目で工事見学会を開催したり、危険のない作業を選んで手作り公園工事などを企画したりして、参加してもらいたいと思っています。

# キセラ川西

Kisela Kawanishi



■ワークショップ参加者  
延命寺 陽子さん

現在1歳と6歳のわが子が自由に遊べる場が欲しいと、中央公園の市民ワークショップに参加。プレーパーク講座にも積極的に参加している。

### プレーパーク講座参加者募集

全3回の2回目。4月25日(土)午前10時半から午後4時に国有地プレーパーク(西宮市)を訪問。現地運営団体の話を聞き、遊びを体験します。子ども連れの参加も大歓迎。対象は18歳以上。  
希望者は市役所5階の地区整備課に備え付けの応募用紙(市ホームページからもダウンロード可)に必要な事項を書き、4月20日(月)までに〒666-8501・同課へ郵送を。ファクス(740)1330・電子メールkawa0193@city.kawanishi.lg.jpでの提出も可。詳しくは同課☎(740)1207へ。



■対談場所  
【のせてん里山インフォメーションコーナー】  
営業時間:10:00~17:00 年中無休  
場所:阪急・能勢電鉄「川西能勢口」駅東改札口すぐ

### 南部と北部をつなぐ 里庭エリア

**司会** 公園の中に里庭エリアという黒川地区をイメージしたゾーンがあると聞きました。

**市長** そうですね。川西市は南北に長い地形ですので、南部と北部の地域が何らかの形でつながるといってもいいかなというので、西島さんにもアドバイスをもらって決まりました。素晴らしい視点だと喜んでおります。原田社長は、黒川地区をご存知ですか。

**原田** ええ。最初は知らなかったのですが、今回、市民の皆さんが出されたアイデアの結果として里庭エリアが生まれましたので、黒川地区にも行かせていただきました。炭焼きが現在も行われていて、その材料となるクヌギの木を切り出した山肌

が、パッチワークのような景観で非常に美しいと思いました。また、里庭エリアには黒川地区から台場クヌギやエドヒガンを移植するというところをお聞きして、過去にそのようなことをやったことがありませんので、気を引き締めて取り組みたいです。

**司会** 市内から植物を移植することになって、黒川地区の皆さんに大変ご協力いただいたと聞いています。西島さんは現地に行かれて、何か感じたことがありましたでしょうか。

**西島** はい。今回のキセラ川西の中央公園が面白いところは、先ほど市長がおっしゃったように、ミニチュアの川西市の自然が見られるようにしようというところ。そして、流通している木を植えるのではなく、実際に黒川地区から移植するところ、実際に黒川地区から移植するということについては負担が大きいと思いますが、市民にとっては夢が広がります。

ます。何十年も経った先に、黒川地区と市民をつなぐ大きな存在に育っていくと思います。  
この提案をさせていただいたときに、市の職員や事業者の皆さん、何よりも炭焼き農家の今西さんや黒川自治会の皆さんがぜひやろうと言ってくれました。また、候補に選んだ樹木の所有者の方々にも快くご協力いただけることになりました。こうして、みんなが同じ方向に向かっていることが、今回の醍醐味だと思っています。

**司会** すごく大規模なプロジェクトですね。  
**原田** 私どもの経験としては、植栽業者の苗木を植えることがほとんどでしたので、移植については、西島さんのアドバイスをいただきながら進めていきたいと思っています。  
**西島** 植栽のポイントには、エドヒガンと台場クヌギです。エドヒガンは

移植に強い品種で、長寿の桜です。何度切っても再生します。シンボルツリーにもふさわしい。そして、台場クヌギは他の地域にない、川西市が誇る財産だと思います。みんなが誇れる財産だと思えます。

**市長** 市長、今のお話をどう思われましたか。  
**市長** お二人の話聞き、まさに作り出すだけでなく、心を込めなくてはいいなと改めて感じました。川西の台場クヌギは有名になってきています。市内の統一感を持ってやっていきたい。それが全体の付加価値を高めていくことになると期待しています。

**司会** まさに、市、事業者、専門家、この3者がそろったことによる相乗効果ですね。  
**市長** お二人の話聞き、まさに作り出すだけでなく、心を込めなくてはいいなと改めて感じました。川西の台場クヌギは有名になってきています。市内の統一感を持ってやっていきたい。それが全体の付加価値を高めていくことになると期待しています。

### 里庭エリアの使い方

**司会** 里庭エリアでは、プレーパーク(冒険遊び場)という具体的な使い方がワークショップで提案されています。私もとても関心があるので、皆さんはどのような印象をお

### 可能性をカタチに 人とひとをつなぐ公園へ

持ちですか。  
**市長** 公共施設はどのように活用していただけるかが非常に大事で、出上がっても閑散としていたら作った意味がないと思います。各世代にわたって、おとなから子どもまでが親しめる、自然とそういうカタチの公園になっていけばと願っています。

**司会** 私が関東のプレーパークへ行った際には、地域の住民と行政が協働で管理運営をしていて、木登りや泥遊びなど子どもたちが自由に遊べる場所になっていました。原田社長はどう思われますか。  
**原田** せっかく造る施設ですので、多くの皆さんに使っていただき、次の世代へ受け継いでいただければいいと思います。

**司会** 子どもが自由に遊ぶ場所として、この里庭の植物はすごく面白い要素があると思いますが、その辺に關してはどうでしょうか。  
**西島** 子どもって、いろんなもので、いろんな遊びをしますよね。それが、この公園に来たらいろんな木があっ

### 川西らしさを次世代へ

**司会** 本場に、可能性がある川西市。その可能性をカタチにする中央公園、せせらぎ遊歩道だと感じました。次世代につなぐ、壮大なスケールのお話ですが、一方で、まだ始まっ

たばかりです。今後に向けて、改めて皆さんから一言お願いします。  
**原田** 今回のような市民参加型のPFI事業というのは、今後のまちづくりの新たな方向性を示すものだと思います。そういう意味でも、重責を担わせていただくと、最大限の努力をしていきたいと思えます。

**西島** まず、自分の使命を責任を持ってやることと、一市民としての心も忘れずにやっていきたいと思っています。  
**市長** 今、世の中は成熟期を迎えています。人口減少時代を迎え、これから人の心やつながりを、もっともっと大事にしていく時代になっていきます。みんなが楽しく、幸せに暮らすまちづくりは何か。そういう意味で、キセラ川西は縮図になっていくと思っています。低炭素のまちづくりや、人と人との出会いを創造する公園。これからは川西らしさを大切に、多くの皆さんと一緒にやっていきたいと思えます。



■黒川地区に自生する「エドヒガン」(上)と「台場クヌギ」(下)

